

## 少子化問題を考える

昨年、我が国の合計特殊出生率は1.29にまで落ち込み東京都内は更に深刻で0.99となりました。しかし、私どもが推奨している家庭出産でお産する方にはこの統計は当てはまらないと思っています。

その理由は、私どもの助産所で、これまでに出産された方々のデータに表れています。まず、何人目のお産で家庭出産に臨んでいるかという出生数ですが初産:19.6%、二人目:45.3%、三人目以上:35.1%となっており、中には五人目でいらっしゃる方もありました。私どもの助産所における合計特殊出生率は東京都の2倍を超える2.3となっています。また、初産で来所される方々の中には「今後出来る限り多くの子どもを産みたい」とおっしゃる方が多く、私はたいへん心強く感じています。

次に出産時の年齢についてですが99%の方が20~40才までの方で、精神的にも肉体的にも自信のある方が実践されているようです。

この他に妊婦さんの職業の有無についてですが3年前からパートを含む有職者が増え続け、昨年は一挙に専業主婦の方を有職者の方が比率的に逆転、それも全体の約60%の方が職に就かれていたという結果が出ています。

我が国の発展に大きな障害となる少子化問題の原因が「核家族化と働く女性の増加による弊害」と指摘する専門家もあります。それを少しでも打開する方法として私は家庭出産をお勧めします。

職を持つ妊婦さんが増え続ける中で、何と言っても大切なことは、妊婦さんの負担を軽減し、『これなら次も産んでもいいわ』と思えるような環境づくりが出来るか否かにあると思います。入退院の煩わしさが無く、普段通りの生活が続けられる家庭出産は正に合理的でニーズに叶った出産方法と言えます。

家庭出産の実践者の方々は、上のお子さんを保育園に通わせながら妊娠生活を普段通り家庭で過ごし、家族揃って家庭でお産を迎えます。出産後も育児休暇等を有効に活用し、子育てを楽しみながら充実した日々を送られています。

これら家庭出産を通して見えるお母さんたちの姿から、出産が苦痛なく満足のいくものであれば女性は『また次の子どもを産みたい』と思い、『子育てが楽しい』と感じれば、お子さんが何人いようと容易く育児に励むことが出来るのだと感じます。それが結果的に出生率の向上に繋がっていることは私どものデータを見れば明らかです。

今後も家庭出産というスタイルにトライしようとする健全な精神と肉体を持った女性が増えることを願うとともに少子化問題の解決に微力ながら貢献できるよう頑張っています。